

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	子安保育園
-----	-------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生き物 ～いきものってかわいい、楽しい、ふしぎだね～

<テーマの設定理由>

これまでも昆虫の飼育や採集に対して子どもたちの興味関心が高かった。今年度は、昆虫以外の生き物への興味が広がり、その生き物の住環境を気にしながら飼育する言動が見られているため。

2. 活動スケジュール

～11月 カブトムシ、クワガタムシの飼育・観察
カブトムシの幼虫の飼育・観察。
11～1月 図鑑や玩具を介した動物への興味・関心の芽生え。
移動動物園を介して、小動物にふれあう。
図鑑やタブレットを用いた動物への興味・関心の深まり。
1～3月 動物と人間の違いを話し合う。
人形や玩具を用いてごっこ遊びを楽しむ。
自分がお腹にいた頃、生まれた時の話を聞く。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・生き物の生態を知るための書籍やタブレット端末、生き物を採集、飼育するための虫取り網や飼育ケースの購入。
- ・小動物を間近に見たりふれあったりする機会をもつために移動動物園の要請。
- ・動物や乳児へ興味・関心をもつきっかけ作りとして人形等の玩具の購入。
- ・子どもが保護者からの愛情を知る機会として、保護者保育参加の設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・カブトムシ、ザリガニの飼育。カブトムシの卵のふ化から、幼虫の飼育。
- ・移動動物園にて小動物とのふれあい体験。
- ・絵本や図鑑、タブレット端末による、生き物についての探究活動。その後、調べたことを表現発表の場で動きや鳴き声、クイズとして披露する。
- ・保護者保育参加時に自分の保護者から出産時の話やその時の保護者の心情を聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

昆虫が好きな子が多く、戸外活動の際には虫探しを活発にしている。個人用のルーペ付き虫ケースを使用してからは更に虫探しが盛り上がった。“足は〇〇本”、“お腹に卵がついている”など、観察力が深くなった。以前は捕まえた虫をカップや袋に入れて自分のものにし、楽しんでいた。カブトムシの飼育や成虫の死を経験してからは、捕まえても餌などの飼育環境が整わなければ、逃がすという選択ができるようになり、関わり方の変化がみられた。昆虫や生き物に対しての興味が広がり、疑問に思ったことは、図鑑や本、生き物に詳しい友だちに聞くなどして探究活動が盛り上がった。お楽しみ会では、子どもたちが主体的にいきものに関するクイズ作りを行った。保育者は子どもたちが困ったときにサポートができるよう見守った。クイズ作りは、意欲的に取り組んでいたため保護者の前で表現する際も、「お母さんたち答えられるかな？」と期待し、楽しみながら、自信をもって行っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

カブトムシの飼育から、つながる命、終わってしまう命を学び、実体験することで、子どもたちの昆虫とのかかわり方が変わり、命を大切にしようとする様子がみられた。幼虫の飼育や小動物のかかわりにより、愛着がわき、気持ちが満たされる様子も見られ、生き物との関りや飼育活動は、子どもたちの心を豊かにする体験だと感じた。

最終段階として、自身が産まれてきた時の保護者の思いを聞くことで、愛されて育ったことや、大切な存在であると感じ、どの子も明るい表情を見せていた。受け止められること、肯定されることが何よりも子どもたちの自信や力になることを感じ、良い活動となった。